

人材屋新聞

2026年11月号

Instagram

YouTube

TikTok

一人ひとりの「らしさ」を力に変える育成

楽しみながら成長できる環境づくり

企業の成長に欠かせないのが「人材育成」です。しかし、人は一人ひとり価値観や考え方が異なるため、画一的な育成では十分に力を発揮できません。今回は、長年にわたり新人育成に携わっている篠原さんに、大切にしていることや具体的な取り組みについて話を聞きました。日々の人材育成やコミュニケーションのヒントとして、ぜひ参考にしていただければ幸いです。



①育成で大切にしていること

新人育成では、まず相手の「考え方や行動の土台」を知り、本人以上に理解することを大切にしています。そして、その人らしさを受け入れたうえで、どの要素を伸ばせば個性や強みがさらに活きるのかを考えます。新人の個性や成熟度に応じて、ティーチングとコーチングを使い分け、関わり方の深さや距離感も柔軟に調整しています。また、育成は一方的に教えるものではありません。新人との関わりを通じて、教える側も新たな視点や価値観を学ぶ「相互成長」の姿勢を大切にしています。

②具体的な取り組み

相互理解を深めるため、一人ひとりの特性やコミュニケーションスタイルを理解しながら、一人ひとりに合った関わり方を考えています。また、「どんな姿を目指したいのか」「なぜそうなりたいのか」という背景まで聞くようにしています。さらに、新人の状態を見極めることも大切です。細かく管理したほうが力を発揮できるのか、ある程度自由に裁量を持たせたほうが伸びるのかを見ながら、任せ方やサポートの量を調整しています。

③育成における難しさと向き合い方

思うように成長しないときは、周囲や本人との対話を通じて要因を探り、必要に応じて自分の関わり方を変えます。認識が合わない場合は、考えを図や言葉にして意思疎通を図り、相手の理解度や解像度を高めていきます。教える側としては、相手が受け取れる状態やタイミングを見極めて伝えることを意識。視座は新人より高く持ちながらも、関係性は対等であることを忘れません。「頑張る」よりも「楽しむ」ことを大切にし、良いエネルギーの循環を心がけることで、個人の成長、そして組織への良い影響につながる育成を目指しています。

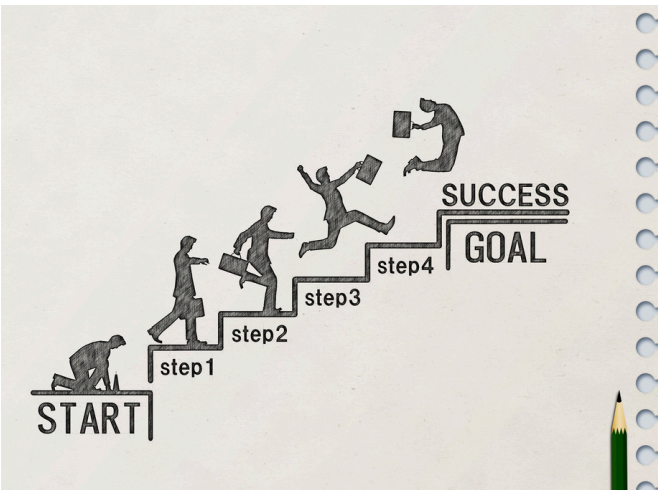
「採用のことなら」から、「人のことなら」の人材屋へ

人材不足が深刻化するなか、企業を取り巻く採用環境は大きく変化しています。北九州市でも人口減少や高齢化が進み、「採用したくても人が採れない」という声が増えています。また、採用市場は「求人を出せば応募が来る時代」から「企業が選ばれる時代」へと変わり、採用後の育成や定着まで見据えた取り組みがますます重要になっています。こうした背景から、人材屋では十三期（十月一日～）、これまでの採用支援を土台に、育成・活躍・定着まで一貫して支援する「人材総合サービス」への進化を目指します。「採用のことなら人材屋」から、「人のことなら人材屋」へ。お客様により幅広い価値を提供できる存在になりたいと考えています。その取り組みの一環として、先日、全メンバーでキックオフ研修を開催しました。



研修では、育成・定着・活躍に関する知識や事例を学ぶとともに、架空企業を題材にしたケーススタディを実施。お客様が抱える課題を多面的に捉え、解決策を考える実践的な学びの場となりました。また、一人ひとりが自身の強みや今後磨きたいスキルを見つめ直し、「どんな価値を提供できる人になるのか」についても考えました。真剣な議論の一方で、笑いも絶えず、人材屋らしい活気あふれる研修となりました。

これからも人材屋は、採用だけでなく、その先の活躍や定着まで見据えながら、お客様の課題に寄り添い、ともに成長できるパートナーを目指してまいります。そして、「人のことで困ったら人材屋」と思い出していただける存在であり続けたいと考えています。



小倉北区のオススメお店紹介！

■■■堺町にある「かりん燈」■■■

十月より、営業形態を完全予約制・コース料理中心へ変更されました。季節の食材を使った料理と、国産のかすみ鴨を使用した看板メニュー「小倉鴨炊き」は絶品です。お酒の種類も豊富で、厳選された日本酒も楽しめます。落ち着いた雰囲気の店内で、おいしい料理をリーズナブルに味わえるのも魅力のひとつ。二名から三十名まで利用できるため、少人数でのお食事から宴会まで、さまざまなシーンで活用できます。ぜひ足を運んでみてください！